

31

古い資料はどうやって探したらよいですか？

●OBは最有力の情報源。業界団体、地方自治体などもあたりまじょう。

古い資料の出所として、OBは欠かせません。技術開発史などにまつわる貴重な証言や資料が出ることも多いので、ぜひ資料提供の依頼をしておきたいものです。その際、社内と同じように文書で依頼をしたほうがよいでしょう。また、OB会が開かれることがあるならそれを視野に入れた依頼の仕方がありまじょうし、社史編纂の機会にOB会を開く、そこで何らかの情報収集を狙うといった方法もあるでじょう。OBご自身が亡くなっているときでも、家族にお聞きしたりすることもできますから、何らかの情報が期待できます。

これは一般的な方法ではありませんが、とくにOBの世代で、几帳面な方が自身の覚えとして日誌をつけていることがあります。要職にあった方の日誌ならば、仔細に点検してもらうと、かなり多くの出来事が拾えます。当社で制作をさせていただいたお客様で、二〇年分の日誌をもとに基礎情報台帳（Q32参照）をつくられたところがありました。大変能率的でした。

また、親会社、得意先や取引先に資料提供をお願いすることもできます。あらかじめどのような資料がほしいか具体的に依頼したほうが先方も協力しやすいでしょう。

いずれの方々にもお願いするにしても、すぐに取りかかっていただけは期待できません。したがって、時間的余裕をみるなり、何度もお願いをすることなどが必要です。

このほか、業界団体に問い合わせることも有効です。特に団体の要職を務めた会社だとなりの情報が集まりますし、「業界の歴史と会社の歴史がほぼ一致する」ケースもあるようです。もちろん、業界紙・誌のバックナンバーや業界団体の団体誌、会報、年史などのもい一番にあたるべき情報源です。

また、どんな組織も地域社会との結びつきがあります。地域の歴史的資料は、県や市町村立の図書館や、博物館、公文書館に保管されています。図書館にはレファレンス担当の司書が、博物館には学芸員が、文書館にはアーキビストとよばれる専門家が常駐していますので、事情をお話して相談すれば、思いもよらぬ情報が出てくるかも知れませんし、地域の事情がよくわかります。

さらに公的な許認可が必要な事業の場合、それに関わる書類が公文書として官公庁に残されていることがあります。都道府県知事の許認可であれば、都道府県の文書館に、国の許認可であれば国立公文書館に、それらは眠っています。国立公文書館の資料はインターネットでも検索可能ですので、調べてみる価値があります。